

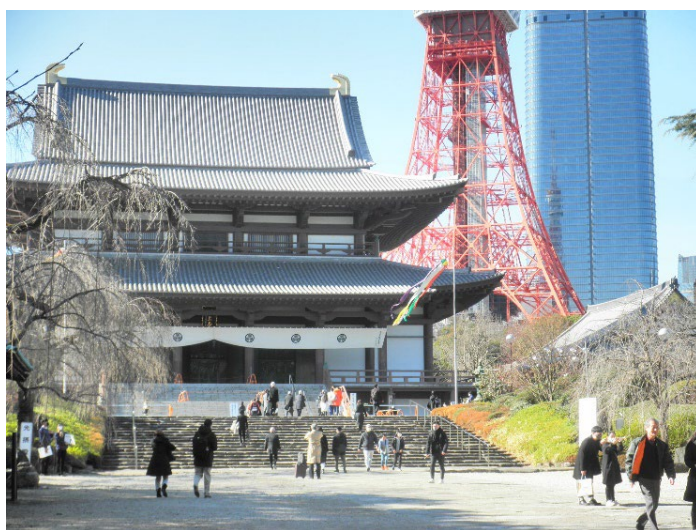
殿様日記 vol.17 継宗の儀に出席して

令和5年2月18日

継宗の儀とは、徳川家第18代当主徳川恒孝様が御息家広様に徳川宗家当主の役割を引き継ぐ交代儀式である。徳川家広様は第19代当主となる。この継宗の儀は令和5年（2023）1月29日午後2時から3時まで徳川家の菩提寺東京都港区（芝公園）にある大本山増上寺本殿で開催された。本堂内の上段の間には畳が敷かれ、中央には御本尊が安置され、その左右には関係者席が設けられていた。招待客は、上段の間を取り囲むように設置された床に自由に着席できた。上段の間は、中央に増上寺89世法主の座があり、その右少し後ろに徳川家広様の席が設けられていた。そして御本尊の左側は徳川家広夫人の英理様、家広様の妹典子様、奥に向かって水野勝之様、徳川四天王の一人旧庄内藩第18代酒井忠久様、（一社）霞会館鷹司尚武理事長の方々のお姿をお見受けした。右側は僧侶の方々が列席され、その中には数人の楽人が同席された。献香される御家流23世宗家三條西堯水様は、衣冠束帯姿で、志野流21世家元後嗣蜂谷宗苾様は紋付姿で所定の席に着かれ式が始まった。徳川家広様はモーニング



1 継宗の儀が行われた大本山増上寺山門にて 牧野忠昌



2 大本山増上寺 大殿本堂 後方は東京タワー



3 大殿本堂内



4 江戸消防記念会による特別演武 梯子乗り（3点）

姿、夫人は留袖姿であった。

私の招待客番号は、NO. 529であった。そして偶然私の父方の従兄弟である大給松平家末裔の松平誠様（豪華客船 飛鳥Ⅱの元社長）と久し振りにお目にかかり、同席出来たことは大変うれしかった。式次第とおり開式、読経、献香、継宗、これは18代恒孝様から徳川家に伝わっている刀を家広様に受け継ぐ儀式、読経、御垂示、最後に徳川家当主挨拶で式は終了した。その後、大殿下で300余年の歴史が現在まで伝わっている（一社）江戸消防記念会の皆様に

よる江戸火消による御祝いの歌と木遣り、纏降り、梯子乗りが披露された。威勢の良い掛け声と共に晴れ渡った江戸の空を背景に継承されている見事な技が披露され、家広様はじめお祝いに駆け付けた皆様方は大変お喜びであり、晴れやかな継宗の儀の締めくくりであった。

記念品は、徳川家第19代継宗記念の和菓子「^{ふうのか}楓果」、増上寺からは御朱印帳で出席者全員が頂戴した。「楓果」はこの度の徳川家広様の徳川宗家継宗を記念として開発された品とお菓子の説明文に記されていた。「楓果」の製造元は、もみじ饅頭で有名なにしき堂である。

継宗の儀は、私語のない静寂の中、厳粛荘厳に執り行われ、出席出来たことを御先祖に感謝している。



5 中央 式次第、右 御朱印帳、左 楓果



6 記念のお菓子 「楓果」